苔で紡ぐ和の余白 —調緑—

01_「和」という感覚

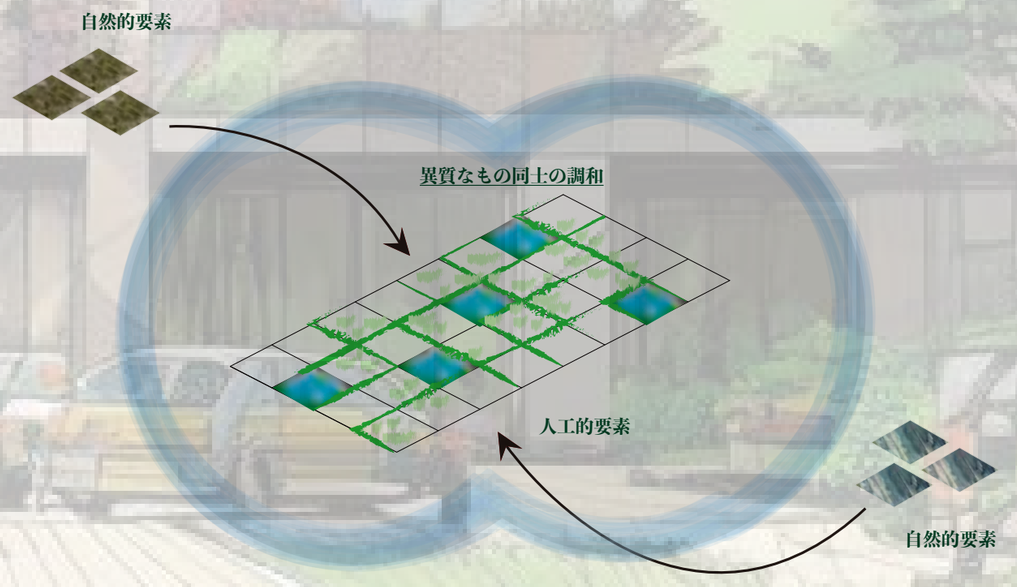
近代化の進行に伴い **和** は本来の姿を見失ってしまい

同質のもの同士が馴れ合う姿を **和** と勘違いしてしまった

しかし本来 **和** とは

異質なもの同士の調和 ではなかろうか

本デザインにおいて 自然 × 人工　という二項対立の調和を試みた



苔の調和

02_「和」のための「間」

和 にはそれを成立させるための余白

すなわち **間** が必要である

間 とは予め人の手によって設えられたものではなく

自然の成り行きによって設えられていくことだと考える

我々は **苔** を用いて 時間をかけて

ゆっくりとその空間が調和していくその **間** の過程を表現した